

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） お答えいたします。

7つのテニスコートの施設のうち、今現在、峰町と上対馬町がグリーンサンドになっています。今、そのうちの1つの上対馬町のほうを人工芝にできないかというお尋ねだと思います。

参考までに申し上げますと、過去の実績で厳原のテニスコートの張り替え、一面に大体1,100万円かかっております。多額の費用を要することから、先ほど答弁いたしましたとおり使用頻度等を考慮して、今後、本当に必要であるかどうかということを考えてまいりたいと思いますが、現時点ではかなり困難だと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） ありがとうございます。

そして、このテニスコートの修理の件もなんですけど、何年間にもわたってずっと要望が出してあったのに、私が言ってきたというのもまたおかしいことですよ。早くから、もう何年も前から出していてもしてくれんで、入江議員に頼んだらすぐできましたというの。だからさっきのと一緒に、やっぱり要望が出たら見てあげてしてもらいたいと思います。7,000万円の子算がついているんですから、よろしくお願いしておきます。

以上です。ありがとうございます。

○議長（初村 久藏君） これで、入江有紀君の質問が終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時10分からといたします。

午前10時52分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。会派未来改革の糸瀬雅之でございます。今回の3月定例会、私にとりまして、1期目、4年間で最後の一般質問をさせていただきます。

過去4年間で、本日までに14回の一般質問及び会派代表質問をさせていただきました。今回の質問内容は、私の地元でございます上県町の将来の振興計画を中心とした市長の思い描いている持続可能な誰一人取り残さない島づくりを目指す上で上県町の将来をどのように考えているのか。3点質問したいと思います。

まず、1点目ですけれども、令和7年4月より対馬市の組織機構の見直しや厳原本庁の機構改革及び上県行政サービスセンター内にあります北部建設事務所の職員を厳原庁舎に集約をし、維持管理を中心とした北部建設管理事務所として人員を削減し、配置計画を検討されております。

また、同じく上県行政サービスセンター内の北地区保健センターの職員も豊玉庁舎に集約をして業務の効率化を図るための機構改革を行う予定ではございますが、上県行政サービスセンター内の職員減による今後の北部地区の住民サービスへの様々な影響が懸念をされます。

地球温暖化の影響による、いっどこで起きてもおかしくない激甚災害による災害時の初動対応や各関連事業者との包括連携協定の確立及び組織の連携を今後どのように取り組んでいくのか。市長の答弁を求めます。

2点目は、上県町の少子化に伴い、佐須奈、仁田地区の各保育所、各小・中学校の将来を見据えての統廃合計画について答弁を求めます。

また、現在、廃校舎となっております伊奈小・中学校、久原小・中学校の今後の解体及び利活用の計画をどのように考えているのか。答弁を求めます。

3点目は、対馬市のアクションプランについて質問させていただきます。

対馬市は、現在、厳原南部地域アクションプラン、豊玉町、峰町を中心とした中対馬未来づくりアクションプランが計画をされ進められております。

今回、令和6年度より新たに上対馬、上県町地区を対象とした北部対馬アクションプランの策定業務を開始され、今、計画中であります。

今後、3地域のそれぞれのアクションプランを市長在任期間中の今後3年間の予算及び全体予算規模はどのように計画をされ進められていくのか。答弁をお願いいたします。

以上、2項目3点について、よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、上県町の振興計画に関する御質問の組織機構の見直しについてでございますが、技術職、専門職が減少しており、募集に対して応募数も少ないことから北地区保健センターを廃止し、豊玉庁舎にある保健部に集約することで、健康増進課、長寿介護課のマンパワーの充実を図り、それぞれの業務に係るバランスを考慮した組織にしたいと考えております。

健康増進課において実施している各種健診においては、北圏域における活動拠点として現北地区保健センターに必要な機材等を配置するなど、職員が移動することでこれまでと同様の業務を行うほか、近隣に居住の職員には、直接、上県庁舎に出勤も可能とし、準備作業を行うなど必要な措置をとることで職員の移動負担の軽減と市民サービスの確保に努めます。

また、長寿介護課の業務のうち介護予防支援事業については、要支援件数が高い数値で維持し

ているため、それに対応する職員の担当件数の平準化を図り、きめ細かな支援業務を行う体制を整えることで市民サービスを維持していきたいと考えております。

北部建設事務所の縮小については、市全体の技術職員が減少していることを鑑み業務の見直しを行い、建設事業については本庁所管業務といたします。

北部建設事務所に代わる部署においては、技術職員を配置し管内公共施設の維持管理及び災害対応などを主な業務とするものでございます。

大規模な災害発生時には、本庁関係課との連携を取り復旧対応に当たることとしております。

なお、災害時における一般家屋等の被害状況調査については、現在と同様に振興部及び行政サービスセンターの職員を中心に行い、関係各部署との連絡調整を図ってまいります。

災害時の初動対応等につきましては、今回の機構改革に伴い対馬市職員災害時初動マニュアル及び対馬市地域防災計画について関係部局と協議を行い、適宜修正を行ってまいります。

また、災害発生時における対応として、各関連事業者と包括連携協定を締結してはどうかとの御提案でございますが、防災関係では既に22団体と協定を締結しております。今後も災害時における関係機関との連携を引き続き強化してまいります。

2点目の各保育所、小・中学校の統合計画並びに廃校舎等の利活用については、この後、最後に答弁させていただきます。

次に、3点目のアクションプランの進捗状況についてでございますが、まず南部地域におきましては、令和4年2月に厳原南部地域アクションプランを策定しております。

本アクションプランは、厳原南部の内山、瀬、豆酥、浅藻、内院の5つの地区を3つのエリアに分け、地域の持つ優れた自然環境や社会環境を地域独自の貴重な資源として有効活用し、厳原南部地域の活性化を図っていくための行動計画となっております。

その推進につきましては、地域住民が主体となり地域と行政が協力して取組を進めていくこととしており、それぞれの果たすべき役割や実施していく事業などについてはエリアごとに協議、検討を行い、優先度の高いものから取組を進めていくこととしております。

現在のところ、厳原南部地域全体の情報発信拠点となる豆酥住民センターの建て替え事業を進めておりますが、そのスケジュールにつきましては、今年度予算において旧施設の解体工事を実施、令和7年度予算において新施設建設のための設計、その後、新築工事に着手できるよう地域や議会の御理解を得ながら事業を進めていくこととしております。なお、新施設建設につきましては、社会資本整備総合交付金を要望しております。

その他の取組につきましても、毎年度当初に各地域の代表の方との会議を開催し、各地域からの御意見等を聴取しながら、これまでに地域マネージャー制度の活用などにより観光地付近の石橋の架け替えや道路の整備、地区内トイレの案内板設置や地区内道路の段差解消などを実施して

おります。

今後につきましても、引き続き地域と行政が一体となって取り組み、地域の好循環を生み出すことで巖原南部地域全体の活性化を図ってまいります。

次に、中部地域についてでございます。

中対馬地域が上対馬、下対馬への単なる通過点とならないよう、環境整備や事業展開により地域の魅力を生かした滞在型観光を目指し、交流人口の拡大、地域の活性化につなげることを目的に、平成30年3月に中対馬未来づくりアクションプランを作成しております。

本アクションプランでは、地域内を事業エリアごとに大きく7つに分けて設定しており、現在は対馬観光をする上で多くの観光客が訪れる対馬のへそ、交流拠点エリアと位置づけている豊玉町仁位地区の活性化事業に取り組んでいるところでございます。

具体的には、平成31年度から令和4年度は、地方創生推進交付金を活用し神話の里自然公園のキャンプ場内にコテージ2棟を増設、シーカヤックやサップのインストラクター養成事業の実施、対馬御当地スイーツの開発や福岡都市圏での交通広告などを活用した中対馬地区のPR事業などを実施いたしました。

また、令和5年度からは、離島活性化交付金を活用しキャンプ施設のPRを兼ねて中対馬地域の魅力発信並びに交流人口の拡大につなげることを目的としたイベント等の誘客事業を実施しているところでございます。

今後の3年間の計画でございますが、現在行っておりますキャンプ客誘客事業を継続し、その中で来年度は峰町の青海の里の段々畑を活用した収穫体験なども計画しております。

また、今後は現在実施中の事業エリア以外での事業についても検討を行い、実態、実情を把握した上で順次実施してまいりたいと考えております。

次に、北部地域についてでございます。

北部地域のアクションプランにつきましては、今年度、計画策定に着手し、来年度3月完成に向け策定作業を進めているところでございます。

進捗状況といたしましては、昨年11月に第1回検討委員会を北部対馬の現状と課題、北部対馬のあるべき姿、ビジョンの設定、北部対馬で優先的に取り組むべき論点についてワークショップ形式で開催しております。

また、先月2月に観光まちづくりを考えようをテーマに、3か所で作業部会を延べ4回開催しております。

本年2月1日から6月30日にかけて、まちづくりのアイデアや意見を募集しており、今後は地域交通、教育などのテーマ別作業部会を開催いたしますとともに、観光客へのアンケート調査等を実施し、計画の策定を進めてまいります。

次に、2点目の上県地区の保育所、小・中学校の統廃合計画及び廃園、廃校舎の利活用についてでございますが、小・中学校の統廃合計画につきましては後ほど教育長から答弁いたしますので、私のほうからはその他の部分について答弁させていただきます。

初めに、上県地区の保育所の統廃合計画についてでございますが、本市では子育て支援施策を推進していく中で、保育所の整備方針計画として令和3年度から令和7年度までを対象期間とする対馬市保育所配置計画を令和2年度に策定し、取組を進めているところでございます。

まず、議員御質問の佐須奈保育所及び仁田保育所の統廃合につきましては、保育所配置計画において両保育所ともに認可保育所基準定員の20人を超えていたこと、将来推計において30人前後の保育需要がある見通しであったことから、現状維持としております。

令和7年度は保育所配置計画の最終年となるため、保育ニーズ等の社会情勢の変化や公共施設再編の方向性を踏まえ計画を策定することとしております。

次に、廃園及び廃校施設の解体、利活用についてでございますが、まず、廃園施設の現況として、久原へき地保育所及び佐護へき地保育所につきましては、両施設ともに休止後10年が経過し、建築後30年が経過しております。

廃校施設につきましては、校舎建設からの年数で申しますと、伊奈小学校が57年、伊奈中学校が56年、久原小・中学校が47年、佐護中学校が54年と、それぞれ経過しております。

これらの施設につきましては、令和4年度策定の対馬市公共施設等個別施設計画において方針は全て用途検討としておりますが、どの施設も老朽化が激しく利活用は困難な状況でございます。

まずはこの状況を踏まえ、その方針を見直してまいります、利活用等の相談及び申請等があった場合は随時対応してまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

佐須奈、仁田地区の小・中学校統廃合計画についてでございますが、まず、令和6年度の学校数は、小学校が15校、中学校が11校でございます。第1期統合推進計画当初と比較いたしますと、統廃合により小学校が11校、中学校が4校、分校が1校減少しております。今年度の児童・生徒数は、小学生が1,203人、中学生が637人であり、小学生が815人、中学生が331人の減少となっております。今後も減少傾向であり、令和12年度には小・中合わせて1,600人を下回る見込みとなっております。

対馬市立学校及び幼稚園等統合推進計画は、児童・生徒数の減少により学校としての教育環境を維持していくことが困難となる状況から統合の推進は避けられないものと判断し、対馬市立学校適正規模、適正配置等検討委員会の答申を受け、平成23年度に第1期計画を策定いたしまし

た。

第1期計画が令和2年度までの10年間の計画であったため、令和3年度から令和12年度までの10年間の第2期計画を令和3年5月に策定しており、現在は令和7年度までの前期計画に沿って進めております。

また、保護者説明会は計画に基づき開催いたしますが、児童・生徒数の状況により判断し、小学校は児童数が20人を下回る場合、中学校は複式学級になる場合と見込まれたときに開催するようにしております。

議員御質問の佐須奈、仁田地区の各小・中学校の統合につきましては、第2期計画の前期において仁田中学校を佐須奈中学校と統合することと計画されております。

仁田中学校の生徒数は、令和8年度に1年生、2年生が複式学級となることを見込まれることもあり、令和6年1月17日に第1回保護者説明会を開催し、統合に向けての協議を行っております。引き続き、統合時期や統合先等について保護者との協議を行ってまいります。

中学校では、複式学級になった場合は教職員の減少に伴い生徒の学習環境に大きく影響するため、複式学級にならないよう統合を進めていく必要があると考えております。

来年度、令和7年度は第2期計画前期の最終年度となるため、後期、令和8年度から令和12年度の計画を見直し、年度別スケジュールを作成することとしております。

今後におきましても、保護者、地域の皆様への丁寧な説明と協議を重ねながら、児童・生徒のよりよい教育環境の維持に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。残り27分になりました。

まず、対馬市の組織の見直し、機構改革のほうからですが、上県町の平成16年3月の合併当時の人口は4,500人いました。しかし、今、この令和6年12月末現在で2,638人、約1,860人ぐらい減少を20年間でしております。

そして、やはり合併前の上県町から20年たった上県町、市長は、今、在籍が9年になりますけれども、どのような力を入れて上県町の振興を計画をしてきたか。そこをまず1点お尋ねします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、今、議員おっしゃられるように4,500人から2,638人といったようなことで、かなりの人口が減っているということで改めてびっくりしております。

これはやはり佐須奈地区が、これまで北部地域の官公施設が集約していたところがかかり減ったことが大きな原因ではないかなというふうに私も認識しているところでございます。

そういったことで人口は少なくなりましたが、ただ、上県地域のにぎわいを消さないようにといったことで、佐須奈地域ではいろんなイベント等が市民の力によりまして行われているところでもございますし、ハード的な整備等につきましてもそれぞれの地域で整備は進めているというふうに思っております。

ただ、私、朝鮮通信使行列を1回、佐須奈に朝鮮通信使が上がったという歴史があることから、これをどうにかして佐須奈の町中で1回できないかということで検討会をしたんですけども、まだこれは実現に至っていないということでちょっと自分でもじくじたる思いを持っているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 今回、北部建設事務所の職員を集約し巖原庁舎に持ってこようという、それは技術職員が不足、そして北部建設事務所の職員の高齢化とかを上げられていましたよね。

市長、ストレートにお聞きしますが、この北部建設事務所に何名の職員を残すのか。もうそろそろ人事異動の季節でございますので、ここで市民の前で、市長、しっかりと何名残すということをはっきりおっしゃってください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まだ今、内部で検討中ということでございますのはっきりとした人数は固まっていない状況でございますが、この前、総括質疑の折にもちょっと申しましたけれども、4、5名前後になるのかなということで考えております。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 4、5名ですか。市長、技術員の不足によってこのように巖原庁舎に集約をする。市長は、いいですか、この6町の面積は御存じですか。対馬市の面積。上県町は6町でしたらどれぐらいの面積があると思いますか。市長、どうぞ。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ここに資料を持ち合わせておりませんので具体的な面積は申し上げることはできませんけれども、地図上で見る限り、上県町はかなりの面積を占めているものというふうに認識しております。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 市長、かなりの面積ではなくて2 番目です。1 5 7 平方キロメートルあるんですよ。対馬市で2 番目の広さがあるんですけど、これを上対馬町と面積を合計しても2 5 3 平方キロメートルあります。

今、対馬市の災害状況を一番心配しているんですよ。災害状況は対馬市で、今、北部地区が過

去3年間、ほぼほぼ北部地区なんですよ。それを4名から5名、また行政センターの職員もやらせるということを考えられておりますけれども、全く市長は誰一人取り残さない方向性の真逆ですよ。真逆。これは誰が主導してやられているのか。そこをもう1つお願いします。

そして、これは庁舎を建設部を豊玉、峰町に集約する。そういった提案はなかったのか。厳原に持って行くのであれば真ん中が一番いいじゃないですか。建設部を厳原に持って行くよりも真ん中の峰、豊玉に集約したら島全体を見れるんですよ。そのような提案というか、考えはなかったのか。

これは市長の決定、権限です所以我々は意見しか言えません。しかしながら、今このケーブルテレビを御覧の北部地区の市民の皆様はええっと思われていますよ。この人事の配置は。これが正しいと思われているか。その辺を市長、どうぞお答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほどから答弁いたしておりますように、まず、近年の技術職員の応募状況が大変少なくなってきたこと、これを何とか効率よく回す必要があるといったことが喫緊の課題でありました。

そういう中、いろいろと総合的に検討をしてきた結果、確かに議員おっしゃられるように町、中対馬地域に集約する案もございますけれども、このことについては、まず本庁に今のところは集約して、中対馬は中対馬で今現在うまく回っておりますので、北部対馬の人員が、今、確か11名でしたか、12名でしたか、いるかとは思いますが、約半数ぐらいを本庁の建設部のほうに集約をしていこうといったことで進めているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、市長がそのように答弁をされました。やはり一番心配される激甚災害の初動対応だと思いますけれども、今、市長は対馬市の災害対策本部長ですよ。一番対馬市で災害が起きているのは佐護地区でございます。もし佐護地区で想定外の災害が起きた場合、市長はどのような対応を取り、どこに避難をさせる考えなのか。佐護川河川工事も20年かかると言われております。市長が災害本部長ですので、この佐護地区の住民、市民にどのような対応をしていこうと考えられているのか。その答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、近頃は気象情報等もかなり進んできておりますので、事前に避難が可能な方につきましては佐須奈地域であったり、他の安全な地域への避難を推奨することを考えております。

そして、また佐護の川自体につきましても、ある程度の水位になれば警報等が発せられるようなシステムもできておりますので、そういったことで、できる限り事前の避難をしていただきました

いというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 事前の避難ですね。分かりました。

今、佐護地区の指定避難場所はどこなのか市長は御存じですか。佐護地区に指定避難所がごぞいます。これは総務部長でもよろしいですけれども、3 か所あると思いますけれども。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） お答えいたします。

今、佐護地区で避難所として指定されているところが、上県町ふれあいプラザ、佐護住民センター、佐護体育館、井口地区集会施設、仁田之内地区集会施設、中山地区多目的集会施設です。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 今、いろいろと指定避難所というのがつくられていますけれども、やはりこの佐護地区の指定避難所はもう老朽化して、一度そういった浸水被害とかに遭っている場所でもあるんですよ。

ですから、本当に、この河川改修が20年かかる想定ではございますけれども、やはり佐護地区のどこかにコミュニティセンターと併用した指定避難所、しっかりとした避難所を市長の中で何か振興計画なんかで上げられないかなというのが私の希望ではあるんですけれども、やはり、今、高齢化になっております。やっぱり佐護地区も場所が広いので、今、いろいろと空き家がございますよね。その空き家も避難所として利用ができないかなという、その辺をもう少し、対馬、佐護だけに限らず、対馬島内いろいろと空き家がございます。その辺を、やっぱり新築の建物を建てるのもいいですけれども、そういったいろいろなところの空き家を利用して、そこを避難所としてお年寄りが遊べるような場所として、市がやはりそういったのに少し動いていただければ、お金をかけて避難所を造る必要もないんじゃないかなと、私はそのようにも思いますので、ぜひその辺は検討されてみてください。

そして、先ほど災害の協定等を私も結んだほうがいいんじゃないかということで質問しましたが、22団体で既にもう結ばれているということで、私はそれをちょっと分かりませんで、いろいろ九州電力とか、いろんなところと結ばれていると思います。

それで、やはり私は激甚災害後の流通体制をいろんなところと、今、マツモトキヨシとかドラッグストアモリ、そういったところともいろんな協定を結んで、災害後の運搬等の、食料品とか、そういったところも必要じゃないかなと思っております。

市長が先ほど人事異動の件で言われていましたけど、今回、この合併当時の参考資料には、合併に伴い支所となる旧役場庁舎については、住民サービスの低下を招かないように必要な機能の整備を図るとしっかりとされておりまして、いま一度、職員の配置を考えていただきたい。よ

ろしくお願いします。

次に、学校の統廃合についてでございますけれども、ちょっと時間ありませんので、大体分かりました。保育所については現状維持。そして佐須奈中学校、仁田中学校については20名以下になれば考えていこうということで、合併等の話合いが進められております。

この話合いなんですけど、やっぱり教育委員会は、今、例えば今後、将来的に保育園とかの保護者も対象として、今現在の保護者でもありますけれども、保育所の保護者を対象とした説明会等も、意見とか今後聞かれてはいいんじゃないかなと思いますけれども、教育長、どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） これまでの実績として、例えば中学校の統廃合についての説明を実施するときには小学校の保護者さんにも入っていただいております。小学校の説明をするときに、今、議員がおっしゃるとおり、確かに幼稚園、保育園の保護者等にも説明が必要かと思っておりますので、1回目の説明会では対象の保護者を小学校、中学校に在籍している保護者にすることが多いんですが、これまでも2回目以降は保育所、幼稚園の保護者にも必要に応じて入っていただいておりますので、今後もそのことについては留意していきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、各地に廃校舎等が上県町にもやはり、先ほども答弁がありましたように伊奈小・中学校ですね。この小・中学校はもう23年前に廃校になっているんですよ。市長は今現在の伊奈小・中学校を御覧になったことはありますか。今の伊奈小・中学校の姿を見られたことはありますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 以前に1回だけ寄らせていただきました。ただ、中にはたしかまだ入れなかったかなとは思っておりますけれども、場所的には結構やっぱりいい場所に造ってあったなということをそのときに感じた次第であります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） もういい場所ではありませんので、今はもう、やはり校舎については鉄筋コンクリート造りがあります。横のほうは木造の屋根が廃墟と化しているような状態でございます。ですから、廃校当時にやっぱり地元の方が何らかの意見を述べていたはずなんですよ。廃校になったときに将来的にこうしてほしいということ。その辺をもう少し地元の方に、伊奈地区の地域マネージャーは、私、分かりませんけれども、その方等を入れて、やっぱり伊奈の廃校舎もそうですけれども空き家、すごい空き家があります。これをやはりどうにかしていかないと伊奈地区も過疎化が進んでいますので、この学校をどうするか。もう廃校にして利活用が

難しいなら解体の計画をすとか、その辺を考えていただきたいと思っております。

今、この少子化の問題はやはり先ほどの人事異動の件と絡みます。上県町の職員はこの合併に伴ってやはり巖原庁舎に皆さん異動になりました。家族連れで異動になったりして犠牲に、犠牲というか、やっぱりそれは致し方ない問題ではございますけれども、今、こうやって少子化の問題の中で、今いる北部建設事務所の職員の中にもやっぱり子供さんがいらっしゃいます。その辺を踏まえて、やはりしっかりと人事異動を考えていただきたい。そうすればやっぱり職員のほうも少し安心するんじゃないかなと思っております。

そして、この子供をどうやって上県町に残すか。やはり先ほども、いろんな企業誘致の問題もありますけれども、なかなか企業誘致も厳しいのが現状ではないかなと思っております。

それで、教育委員会のほうが孫戻し留学制度というのを今年度からやられて、この前も少し、実績で4名ほどいるということで、やはりこの制度は本当にいい制度だと思います。おじいちゃん、おばあちゃんのところは制度で子供たちが来るという。

それで、もう少しこの制度の補助金関係の見直しができないかなと、それを考えていただけないかなと、医療費とか給食費もそうですけれども、そういった助成金と補助金、無料化するとか何か特別な手を打つ方向で考えていただきたいというのが私の希望ではございます。

これは答弁は教育長のほうがいいですかね。孫戻し制度です。市長がいいかな。市長、その制度の。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 孫戻し留学についてお答えいたします。

今年度で1人、実際に帰られるお子さんもいらっしゃるんですけども、逆にまた新たに令和7年度から入ってこられるお子さんも決まりました。

予算についても、1万円ですけども今年度より増やして8万円から9万円を実際に、これはしま親留学でした。里親留学については3万円だったのを4万円というふうに……。 （「いや、孫戻しでしょう」と呼ぶ者あり）失礼しました。孫戻しはそのままだそうです。申し訳ありません。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） やはりできるだけ、我々上県町で生まれ育った人間としては、子供が学校も含めて少なくなったというのはもう実感しております。できるだけやはりこの上県町に小・中学校1つずつでも将来的に残る政策をぜひ考えていただきたい。そのように思っております。

そして、次に北部アクションプランについてでございますけれども、先ほど巖原南部地域アク

シヨンプラン、中対馬未来づくりアクションプランはちょっと時間の関係上、省略いたします。

まず、今、北部対馬アクションプランを立ち上げて計画をされているのはもう分かっております。この佐護小学校の跡地を利活用して、今、佐護は住んでよし・訪れてよしのまちづくり応援事業補助金を活用してやられていますよね。長崎県、国、そして市も補助金を入れてやられています。

しかし、この運営状況がどうなのかと、経営状況、利活用状況、やはりこれはせっかくできた、今、利活用をやられています。しかしながら、もう少し市、県も採択をした以上は責任を持ってこの運営状況を見る。そして、やはり来客、観光といったものにももう少し力を入れて、北部対馬アクションプランの中にそれをもう少し入れ込んでやっていただきたいと、あの学校がせっかくできていますので、そこをお願いしておきます。

そして、やはり、今、この上県町のアクションプランをいろいろと考えられていますけれども、これは要望ですけれども、佐須奈地区であれば鈴木石油前の石垣積みの多目的広場にやはり何らかの企業誘致をお願いしたい。

そして、佐護地区にやはり防災拠点、千俵蒔山もあります。御岳周辺の山道、そしてやっぱりツシマ野生生物保護センター、棹崎公園、非常に観光地として今現在のいい観光地がございますので、ぜひその辺も北部対馬アクションプランに取り込んでいただきたいというのが私の希望でございます。

そして、やっぱり仁田地区は目保呂ダム馬事公園を観光客の誘致として、そこを行政側もいろいろと考えていただきたい。それを私は希望して、今回の一般質問は終わりたいと思います。

市長、最後に私が言った最後の要望をどのように考えておられるか。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、議員おっしゃられた北部対馬アクションプランの中で、聞いていてこれはすばらしいと思うのが、佐護の古民家等を活用した防災施設といったような提案がございました。このことにつきましては大変すばらしい提案じゃないかなと思っております。ぜひ北部対馬アクションプランの中でこころを揉んでいただいて、そして実現ができればすばらしいことだなというふうに思った次第であります。

○議長（初村 久藏君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時10分からといたします。

午後0時01分休憩

午後1時10分再開